

# 和歌山県の地震

令和8年5月

## 1. 和歌山県の地震活動

震央分布図	・・・・・・・・ 1
概況	・・・・・・・・ 1
断面図	・・・・・・・・ 2
和歌山県で震度1以上を観測した地震及び震度一覧	・・・・・・・・ 3
震度分布図	・・・・・・・・ 4

## 2. 地震一口メモ

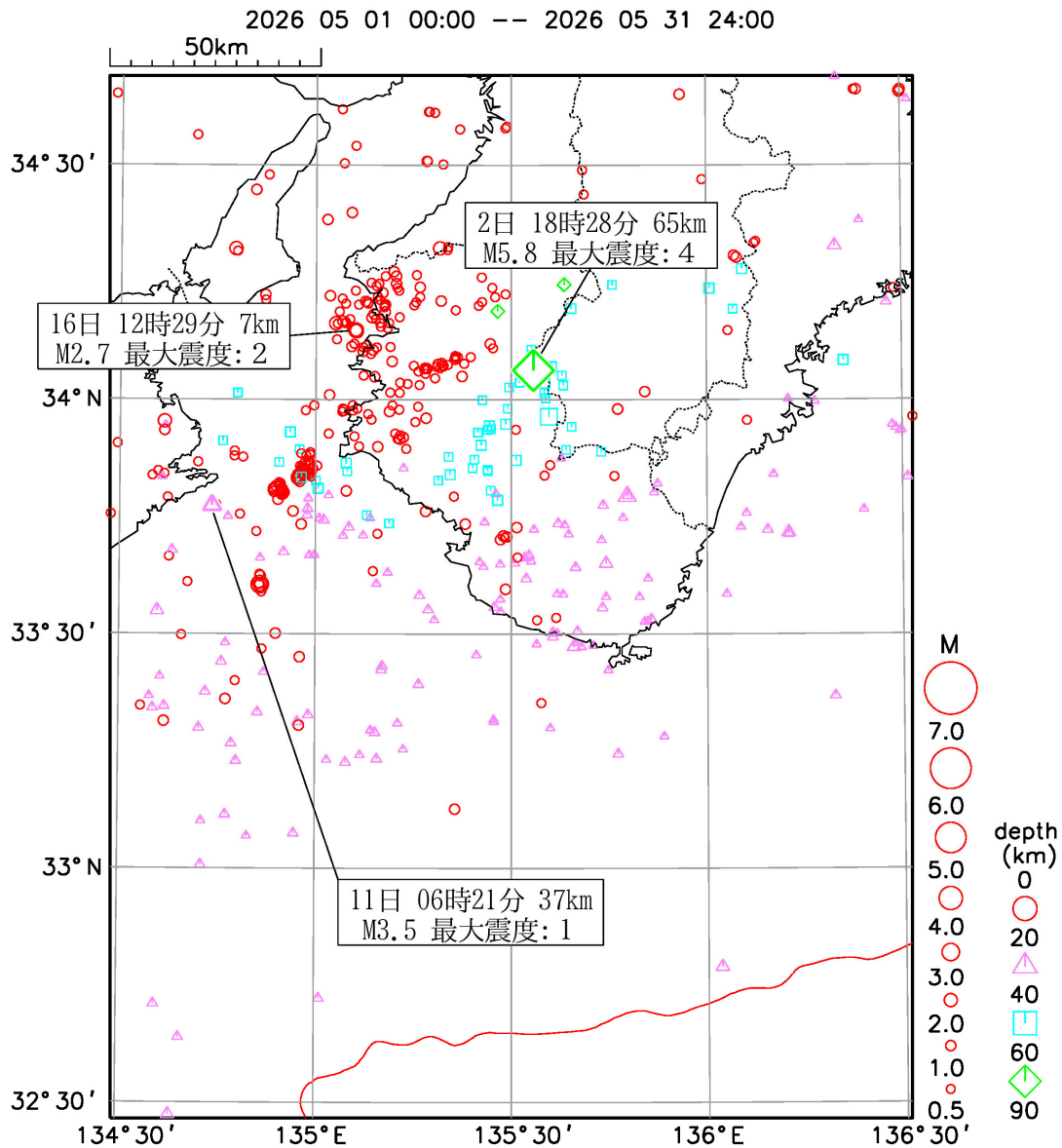
南海トラフ沿いにおける地殻変動監視の強化	・・・・・・・・ 5
----------------------	------------

- \* この資料に使われている震源要素（北緯・東経）は、世界測地系に基づいています。
- \* この資料の地震の震源要素は暫定値を使用しています。震度データを含めて再調査した後、修正することがあります。
- \* 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを使用しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- \* この資料に掲載した地図は、国土地理院の数値地図25000（行政界・海岸線）を使用しています。

和歌山地方気象台

# 1. 和歌山県の地震活動

## 【震央分布図】



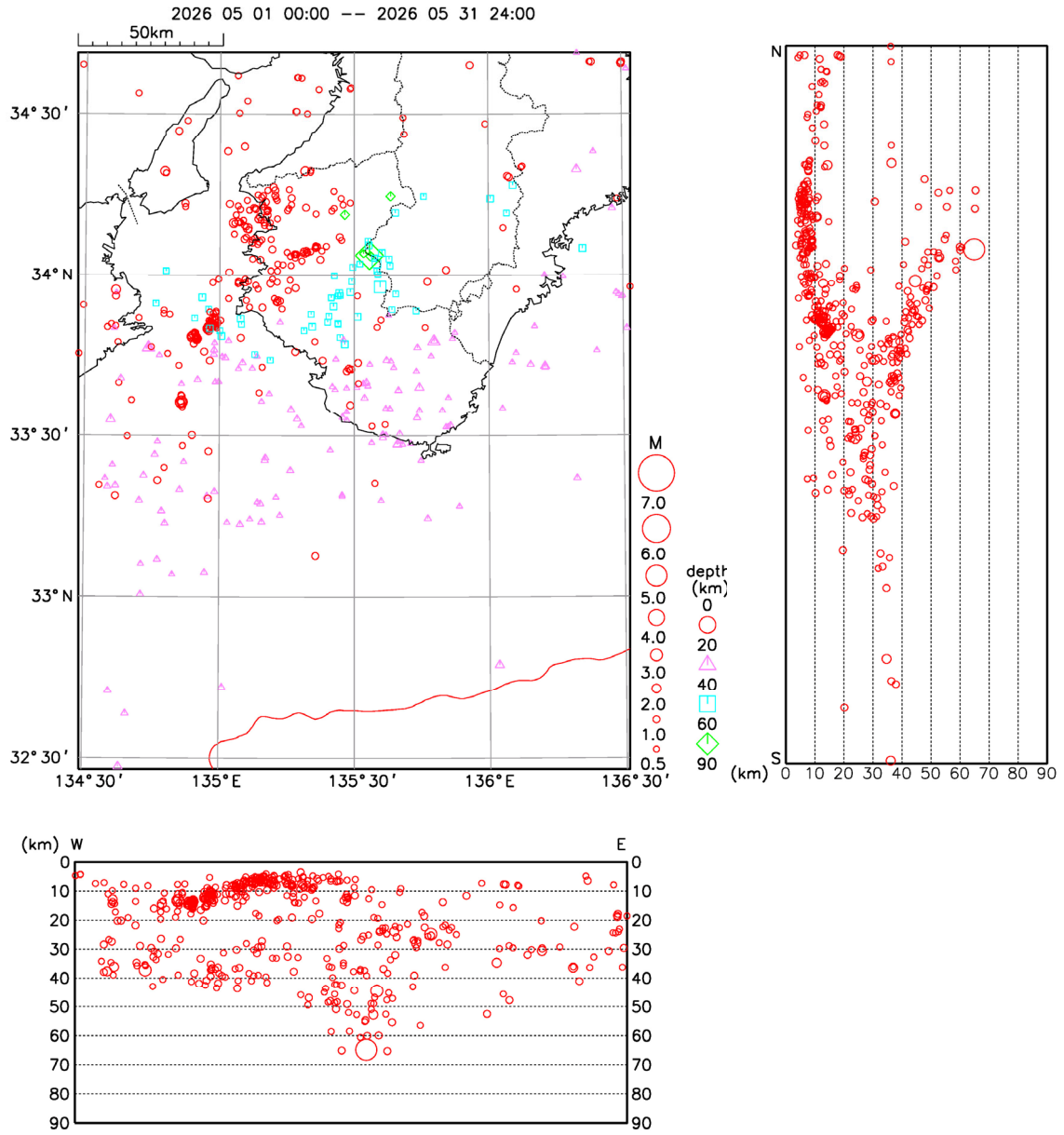
震央分布図は地震が発生した場所を地図上に描画したものです。  
シンボルマークの大きさと地震の規模（マグニチュード）を、シンボルマークの形と色で震源の深さを表しています。また、赤線は海溝軸（南海トラフ）の位置です。  
図中の吹き出しは、和歌山県内で震度1以上を観測した地震および震央分布図内で最も規模の大きな地震を示しており、日時、深さ、マグニチュード、最大震度を記載しています（最大震度は、和歌山県内とは限りません）。

## 【概況】

5月の震央分布図内で震源決定した地震のうち、マグニチュード（M）2.0以上の地震は24回（前月は30回）でした。そのうち最も規模の大きかった地震は、2日18時28分和歌山県南部の地震（M5.8、深さ65km）でした。この地震はフィリピン海プレート内部で発生しました。

5月に和歌山県内で震度1以上を観測した地震は、3回（前月9回）でした。

【 断面図 】



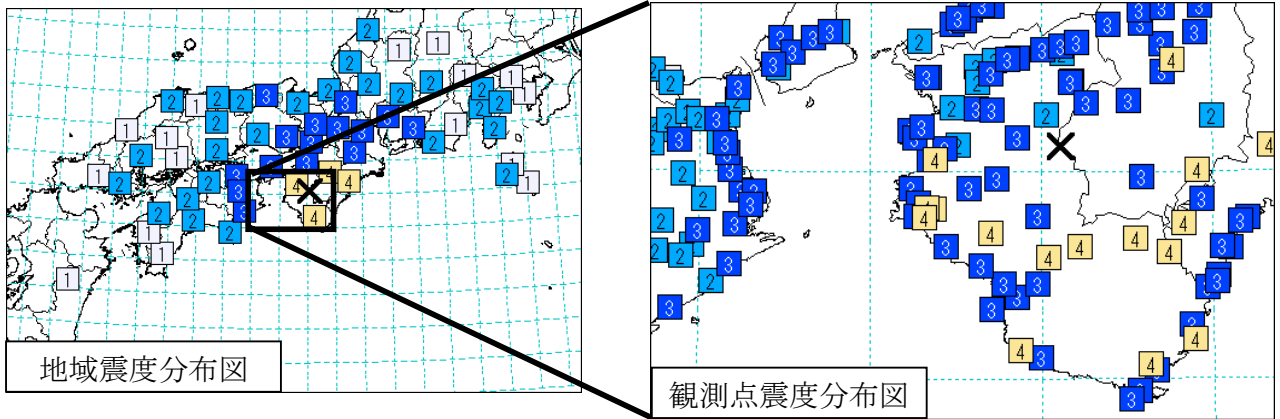
【 和歌山県で震度 1 以上を観測した地震及び震度一覧 】

発震時 (年月日時分)	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
2026年05月02日18時28分	和歌山県南部	34° 03.7' N	135° 33.4' E	65km	M5.8
和歌山県	各地の震度 (和歌山県内のみ掲載)				
	震度 4 : 御坊市菌, 御坊市湯川*, 湯浅町青木*, みなべ町土井, 日高川町土生* 田辺市中辺路町近露, 田辺市中辺路町栗栖川*, 田辺市本宮町本宮* 新宮市熊野川町日足*, 白浜町日置*, 太地町役場*, 古座川町高池				
	震度 3 : 和歌山市男野芝丁, 和歌山市一番丁*, 海南市下津*, 橋本市東家* 橋本市高野口町名倉*, 有田市箕島, 有田市初島町*, かつらぎ町丁ノ町* 高野町役場*, 和歌山広川町広*, 和歌山美浜町和田*, 和歌山日高町高家* 由良町里*, 和歌山印南町印南*, みなべ町芝*, 日高川町高津尾*, 日高川町川原河* 紀の川市粉河, 紀の川市那賀総合センター*, 紀の川市桃山町元* 紀美野町神野市場*, 紀美野町下佐々*, 有田川町清水*, 有田川町下津野* 田辺市鮎川*, 田辺市龍神村西*, 田辺市東山*, 新宮市磐盾*, 白浜町消防本部 上富田町朝来*, すさみ町周参見*, 串本町潮岬, 串本町串本*, 串本町上野山* 那智勝浦町天満*, 太地町太地暖海公園*, 北山村大沼*				
	震度 2 : 海南市南赤坂*, かつらぎ町花園梁瀬*, 九度山町九度山*, 高野町高野山中学校 紀の川市貴志川町神戸*, 紀の川市西大井*, 有田川町中井原*, 岩出市西野*				
2026年05月11日06時21分	紀伊水道	33° 46.4' N	134° 44.1' E	37km	M3.5
和歌山県	震度 1 : 御坊市菌, 御坊市湯川*, 湯浅町青木*, 日高川町土生*				
2026年05月16日12時29分	紀伊水道	34° 08.8' N	135° 06.1' E	7km	M2.7
和歌山県	震度 2 : 海南市下津*				
	震度 1 : 有田市初島町*				

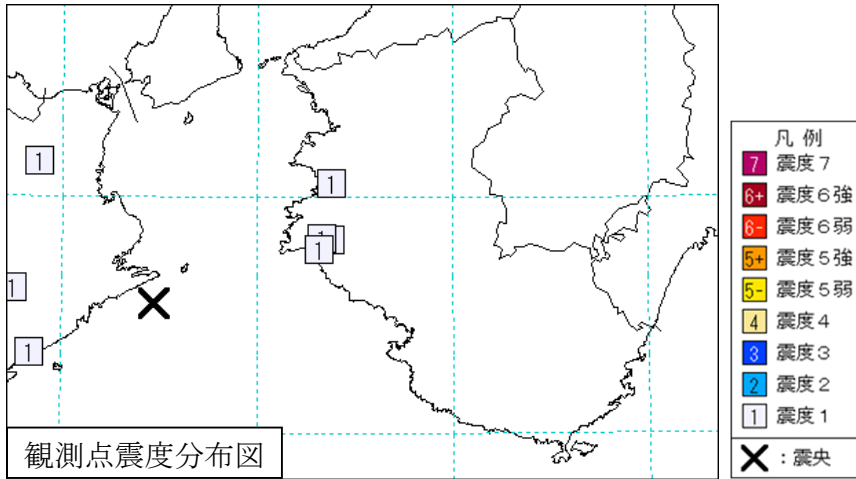
地点名の最後に\*のついている地点は、和歌山県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

【震度分布図】

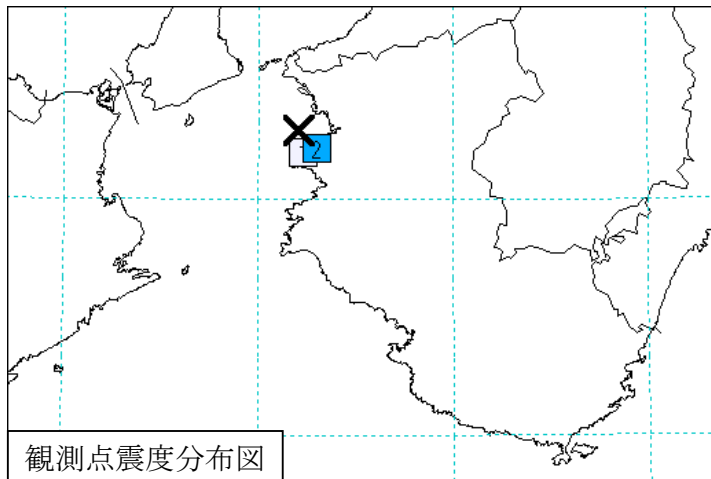
2026年05月02日18時28分 和歌山県南部の地震（深さ65km、M5.8）



2026年05月11日06時21分 紀伊水道の地震（深さ37km、M3.5）



2026年05月16日12時29分 紀伊水道の地震（深さ7km、M2.7）



## 2. 地震一口メモ

### 南海トラフ沿いにおける地殻変動監視の強化

気象庁ではこれまで、「ゆっくりすべり (\*1)」の常時監視を気象庁および静岡県が東海地域に設置したひずみ計 (\*2) に加え、国立研究開発法人産業技術総合研究所 (以下、産総研) が東海、紀伊半島、四国地方に設置した 12 地点のデータを用いて行ってきました。今般、産総研は和歌山県内では日高川町内と香川県に新たにひずみ計を設置しました。この 2 地点の観測データを、気象庁においてリアルタイムで活用できるようになったことから、3月10日より、南海トラフ沿いにおける「ゆっくりすべり」の常時監視への活用を始めました。これにより、南海トラフ沿いにおける「ゆっくりすべり」の検出能力が向上し、その発生を早期に把握できるようになります。

これらのひずみ計で観測されたデータやゆっくりすべり現象は「南海トラフ地震に関連する情報」の基礎資料として活用されます。

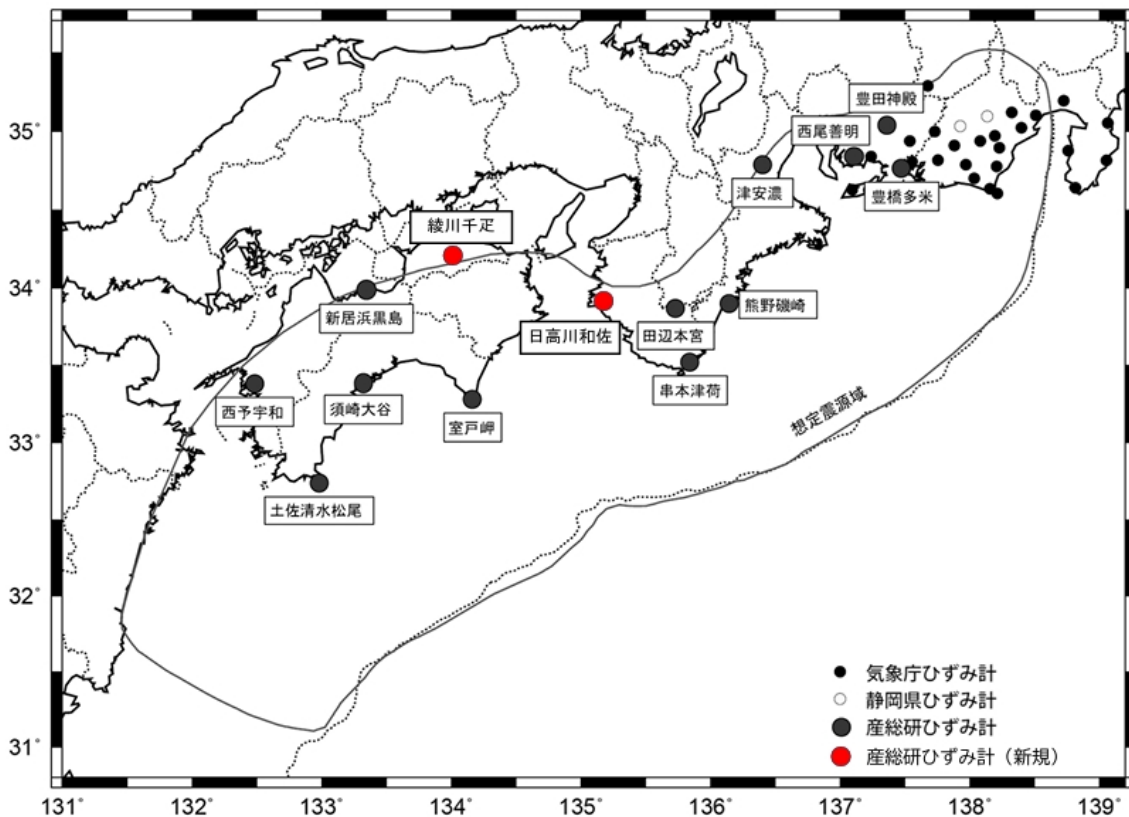


図 南海トラフ沿いのゆっくりすべり監視に用いるひずみ計

ゆっくりすべり (\*1) : ひとが揺れを感じることはない、プレート境界面がゆっくりとすべる現象。

ひずみ計 (\*2) : 地下の岩盤の伸び・縮みを非常に高感度で観測できる地殻変動の観測装置。詳細は気象庁ホームページ (<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/jishin/nteq/strainmeter.html>) をご覧ください。